記載例

補助金成果報告交流会提出資料

団体名：**地域の高齢者の健康を守る会**

事業名：**シニアの交流会**

1	活動目的	何のために実施した事業ですか。（申請書に記載した内容）
	本会は、社会の少子高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者の引きこもりが増えている地域問題を解決するため、地域で支えあう体制を作ることを目的とする。	
2	補助事業の概要	補助を受けて行った事業を簡潔に記入してください。
	月1回（計10回）〇〇地域交流センターで、市内の高齢者を対象に、健康体操・交流・相談会等を開催した。	
3	事業の成果	補助金を受けて事業を行った事で、そのサービスを受けた相手や市、市民に対してどのような成果がありましたか。 ※団体にもたらされた効果や、感想ではありません。
	・補助金を会場費に充てることができたことにより、より多くのシニア交流会を行うことができ、地域の高齢者交流の場をこれまで以上に創出することができた。 ・専門知識を持った講師を招くことで、これまでとは違った角度からの悩みの解消や、より効果的な課題解決を見い出すことに繋がった。	
4	今後の活動	今年度、補助金を受けた事業を通して、団体として、今後の活動にどのように繋げていきたいですか。目標など。
	補助事業を通じて、△△であることがわかったので、これまでのノウハウを活かし、〇〇地域交流センターだけでなく、他の施設においてもシニア交流会を開催し、活動の範囲を広げていきたいと考えている。	

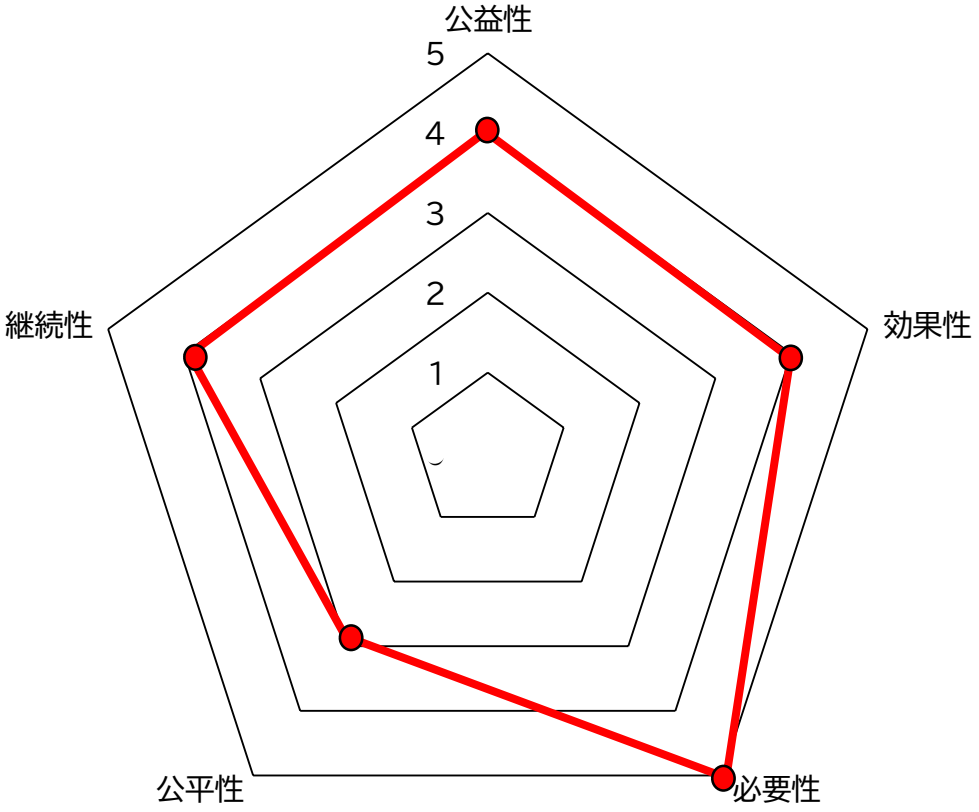
☆活動の成果がわかる写真（ホームページへの掲載や、窓口配架が可能なもの）があれば2枚程度ご提供ください。

裏面に続く

表面は、「おかざき市民活動情報ひろば」などのホームページや窓口で公開する予定です

団体の活動を、それぞれの項目に対して5段階で評価してください。それぞれの項目の考え方は以下のとおりです。
※補助事業の評価に影響するものではありませんので、団体のみなさんが感じたとおりの採点をしてください。

補助事業評価チャート



公益性	市や市民に対しての利益がどれくらいあったか。 （特定の個人、団体の利益にならなかったか、趣味や娯楽が主目的の活動ではなかったか、会員相互の親睦活動にはなっていないか）
効果性	「期待される効果」がどれだけもたらされたか。 活動が広く市民に支持され、発展していく可能性があるか。
必要性	地域課題や市民ニーズに沿ったものだったか。
公平性	補助金の効果が幅広く市民一般にいきわたったか。
適格性	事業内容、予算規模、実現体制など無理なく実施できるものだったか。 補助金の使途として適切だったか。

このページは公開されません。